

1. 感染症速報 (壱岐地区)

令和7年12月15日作成

2025年 第49週 12月1日 ~ 12月7日

作成:長崎県壱岐保健所 企画保健課

疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ	☒☒	RSウイルス 感染症	☺	咽頭結膜熱	☺	A群溶血性 レサ球菌咽頭炎	☺	急性呼吸器 感染症(ARI)	☺
警報:開始30 終息10	45.33	警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始3 終息1	0.50	警報:開始8 終息4	0.50	警報:開始 - 終息 -	69.33
感染性胃腸炎	☺	水痘	☺	手足口病	☺	伝染性紅斑 (リンゴ病)	☺		
警報:開始20 終息12	0.50	警報:開始2 終息1	0.00	警報:開始5 終息2	0.50	警報:開始2 終息1	0.00		
突発性発しん	☺	ヘルパンギーナ	☺	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	☺	新型コロナウイル ス感染症	☺		
警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始 - 終息 -	0.00		
	発生報告 なし		少数の発生あり		流行に注意 【注意報レベル】		流行中 【警報レベル】		

※警報レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフルエンザ:10 水痘:1 その他は設定なし。

※定点数3:インフルエンザ
新型コロナウイルス感染症
急性呼吸器感染症(ARI)
※定点数2:上記以外の疾患
※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなども含まれ、報告数は重複します。

2. トピックス

★県内及び壱岐でインフルエンザが警報レベルで流行しています!!

長崎県内の2025年第49週の患者報告数は2,485人で、定点当たり報告数は「48.73」となり、11月27日にインフルエンザ流行警報が発表され、3週続けて警報レベルの報告数となっています。

壱岐地区においても、第48週に警報開始基準値「30.0」を上回る「30.67」となり、第49週では「45.33」とさらに大きく増加しています。

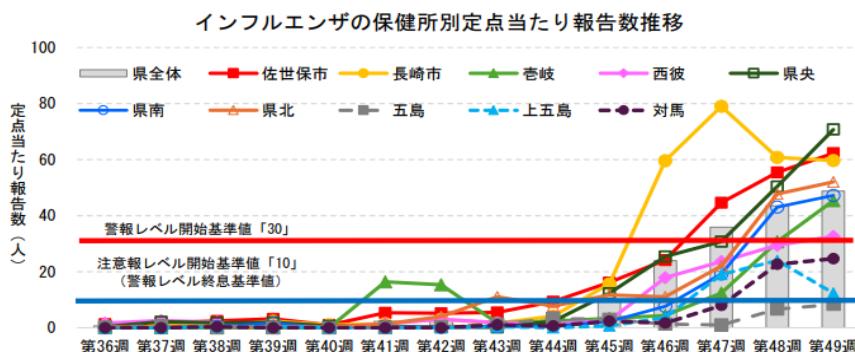
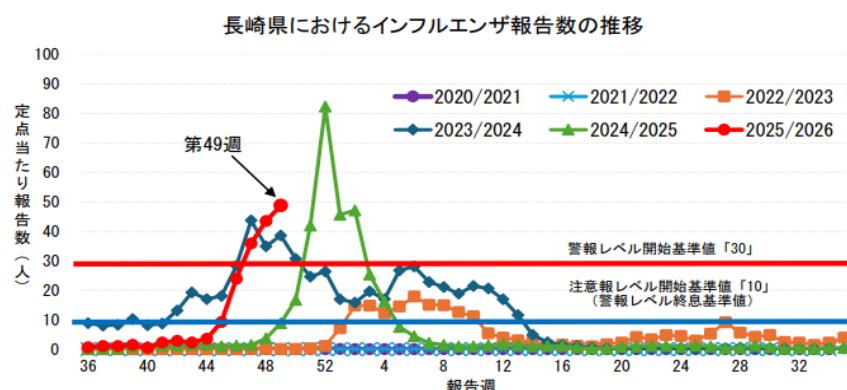
また、地区別にみると、10保健所のうち7保健所で警報レベル、2保健所で注意報レベルの報告数となっています。年代別では、10歳未満(56%)、10代(26%)が多くなっています。

今後もさらなる患者数の増加が懸念されますので、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

◎長崎県感染症情報センターホームページ「インフルエンザ」もご覧ください。

◎2025/2026シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等

(参考)厚生労働省「インフルエンザ総合ページ」



インフルエンザの年代別患者報告数

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
報告数(人)	1395	657	104	109	94	45	45	21	15
報告割合(%)	56.1	26.4	4.2	4.4	3.8	1.8	1.8	0.8	0.6

◆社会福祉施設等では感染症発生時に、別途対応が必要な場合があります(10人以上の感染症者の集団発生等)

高齢者、乳幼児、障害者等が集団で生活又は利用する社会福祉施設及び介護老人保健施設等（以下「社会福祉施設等」という。）においては、感染症等の発生時における迅速で適切な対応が特に求められますので、通知に基づき、市町村等の社会福祉施設等主管部局及び保健所に報告をお願いします。詳しくは下記URLをご確認ください

該当する場合は、まずはお電話で保健所までご一報ください。担当から感染状況等をご確認いたします。

【報告の目安】

施設長は、以下のような場合、迅速に市町村等の主管部局に報告します。あわせて、保健所にも報告し対応の指示を求めます。

- ①同一感染症や食中毒の患者、またはそれらが疑われる死亡者や危篤患者が1週間位以内に2名以上発生した場合
- ②同一感染症や食中毒の患者、またはそれらが疑われる者が10名以上または全利用者の半数以上発生した場合
- ③上記以外の場合であっても、通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、特に施設長が報告を必要と認めた場合

<報告内容>

- 感染症または食中毒が疑われる者の数
- 感染症または食中毒が疑われる症状
- 上記の者への対応や施設における対応状況 等

<社会福祉施設等における感染症発生時の対応>

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansensyo-iki/kansenshoutaisaku/>

★海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

年末年始の長期休暇を利用して海外に出かける方の増加が予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

(参考)厚生労働省 海外へ渡航される皆様へ

(参考)厚生労働省検疫所(FORTH)

効かない薬が増えている!! 薬剤耐性(AMR)を知っていますか?

●薬剤耐性(AMR)とは
…感染症の原因となる細菌に
抗菌薬・抗生物質が効かなくなること

感染症の予防や治療が難しくなり
さまざまな医療を安全に行えなくなってしまう

～私たちができること～

- ①不必要な時に抗菌薬をのまない
かぜに抗菌薬は効きません!
かぜやインフルエンザの原因となるウイルスに、
抗菌薬はそもそも効果がありません。
必要なない抗菌薬は求めないようにしましょう。
- ②抗菌薬は指示通りにのみましょう
残しておかない 人にあげない もらわない
- ③基本的な感染対策をしましょう
手洗い 咳エチケット ワクチン接種

～かぜに抗菌薬(抗生物質)は効きません!!～

(参考)AMR臨床リファレンスセンター

